特別支援教育課便り

教職員・幼児児童生徒・保護者を応援します！

サポート

Ｎｏ．１５８
平成３１年１月２４日発行
秋田県教育庁特別支援教育課　指導班

報告

〈ゆり支援学校　教頭　大山　美香〉

ワークショップは、平成３０年１２月８日（土）から９日（日）の二日間にわたり、わくわく美術展と隣接する一室で開催しました。会場には、由利高等学校美術部とゆり支援学校美術部が共同制作したオブジェを展示し、壁やオブジェに自作のアニメーションを上映しました。また、来場した方々に、プロジェクションマッピングやアニメーション制作、オブジェ制作の体験をしていただきました。体験した方々から、「自分もパソコンでアニメーションを作れて楽しかった」「親切に教えてもらって分かりやすかった」「プロジェクションマッピングがおもしろかった」などの言葉をかけていただきました。

プロジェクションマッピングの体験では、株式会社ゼロニウム代表の伊藤茂之氏による２０分程度の講義の後、受講者一人一人が、プリントの人面図に「喜・怒・哀・楽」の表情をクレヨンやマジックで描きました。最後には、それぞれが工夫を凝らした個性あふれる表情がマネキンの上に投影され、歓声が上がりました。また、画像が変わるスピードや表情の角度を変えるパソコン操作に挑戦した人たちは、プロジェクションマッピングの醍醐味を味わったようでした。

パソコンを使ったアニメーション制作や工作によるオブジェ制作では、ゆり支援学校美術部の生徒が、来場者に制作の仕方を教えました。生徒たちは、ちょっと緊張しながらも来場した方々と触れ合い、一緒に制作する過程を楽しみ、人を手助けする喜びを感じていました。

ワークショップの最終日である９日の午後３時には、それぞれが制作した楽しい作品が会場いっぱいに飾られ、由利高等学校美術部とゆり支援学校美術部、そして来場してくださった１９８名の方々による合同作品が完成しました。この二日間は、生徒たちにとっても来場してくださった方々にとっても、充実した時間になったことと思います。

【アニメーション製作】

【オブジェ制作】

【伊藤氏による講義】

平成 30 年度
特別支援教育に関する実践研究充実事業

今年度は、特別支援教育に関する実践研究充実事業の研究協力校である、比内支援学校本分校、大曲支援学校本分校計５校で公開研究会が開催されました。いずれの学校も、提示授業や研究資料等によって２年間の研究の成果を発信し、その要点を参加者と共有することができました。今号では、３分校の公開研究会の様子と研究の成果の一部を紹介します。県としては、今後、研究協力校５校の研究の成果を全県の特別支援学校に広げていくことに取り組んでいきます。

大曲支援学校せんぼく校　１０月１７日（水）

研究主題

地域の特色を生かした教育課程の編成

～観光地の豊富な資源を活用し、社会参加の力を育む～

地域資源活用のキーワードを学部ごとに設定し、育てたい姿やそのための指導内容について、学年間の系統性も考慮しながら検討を積み重ねたことにより、教育課程に対する共通理解が深まりました。

地域に関する学習で積み重ねた知識や体験を基に、児童生徒が主体的に活動する姿が多く見られるようになりました。

【学習活動紹介　中学部】
紙芝居と手踊りで角館のお祭りを紹介

比内支援学校かづの校　１１月１６日（金）

研究主題

児童生徒の人と関わる力を高める授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて～

「人と関わる力段階表」から見えてきた、一人一人の育てたい力を、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性の三つの柱で整理することによって、児童生徒にとって必要な学びを確認することができました。

「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりを積み重ねたことによって、単元・授業づくりで大切にしたいポイントを見いだし、共有することができました。

【提示授業　小学部】
紙すきで交流校の友達へのプレゼントづくり

比内支援学校たかのす校　１１月３０日（金）

研究主題

自分の力を発揮する姿を育てる授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて～

「絆プロジェクト」（地域学習）において育てたい資質・能力を整理し、各教科との関連を確認したことによって、指導すべきことが明確になりました。学部ごとに作成した「主体的・対話的で深い学び」の視点表の活用が進み、授業改善に結び付きました。

キャリアノートを事前・事後学習に活用したことにより、児童生徒自身が目的を理解して学びに向かい、学習の成果を意味付けすることができるようになってきました。

【提示授業　高等部】
気持ちのよい接客を考えるためのシミュレーション

学習上の支援機器等教材活用評価研究事業
中間報告会（秋田きらり支援学校）

〈秋田きらり支援学校　高橋　正義〉

本校では、文部科学省より「平成３０年度 学習上の支援機器等教材活用評価研究事業」の研究指定を受け、肢体不自由のある児童生徒の学習におけるローコスト視線入力装置（視線入力を利用した意思伝達装置）の導入や活用に関する実践研究に取り組んでいます。また、現在８名の児童生徒がローコスト視線入力装置を使用して様々な学習に取り組んでいます。

これまで大変高価だった視線入力装置ですが、２０１３年頃にローコスト視線入力装置（低価格で購入可能な視線入力装置）が登場した頃から、教育分野や福祉分野で〝新しい支援機器〟として活用への期待が高まっています。

昨年の１１月３０日（金）、県内外から２０名の参加者をお迎えし、中間報告会を開催しました。中間報告会では、ローコスト視線入力装置を活用した４つの授業提示やこれまでの実践を通じて、視線入力のトレーニングを重ねることで、意思伝達の支援機器の一つとして学習に活用できることを報告しました。本研究の成果は、今後、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の支援教材ポータルサイトに掲載される予定です。

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所の支援教材ポータルサイトの QR コード

http://kyozai.nise.go.jp/index.php?page_id=154

ＩＣＴ活用の実際から（ゆり支援学校道川分教室）

「東北３県をつなぐＩＣＴ交流の取組について」

〈ゆり支援学校道川分教室　　教諭　小松　百子〉

道川分教室では、インターネットのテレビ会議システムの同時中継を使って、宮城県立山元支援学校と福島県立須賀川支援学校の３校で交流をしています。この交流は、平成２２年度に東北地区病弱虚弱教育連盟理事の職員が会議で顔を合わせた際、同年代の交流がしたいという話題が出たことをきっかけとして実現しました。

交流は年３回行っており、毎回テーマがあります。１回目は自己紹介、２回目は「学校行事の紹介」でした。各校とも修学旅行の行き先や活動の様子、学習発表会の出し物には関心が高く、他校の発表を熱心に見たり、拍手で応えたりしていました。３回目は「お国自慢ゲーム」をする予定です。

病院に入院している道川分教室の児童生徒にとって直接的な交流の機会は限られますが、ＩＣＴを活用することで友達の輪が広がり楽しい時間を共有できる貴重な機会となっています。

【交流の様子】

【始めの挨拶を担当】

【学習発表会の一場面を再演し、拍手喝采！】

冬のスポーツ大会

県内の特別支援学校が主催するスポーツ大会が各地で行われています。日頃から磨いたそれぞれの力を発揮し、熱戦を繰り広げるとともに、お互いに交流を深めることができました。

第６回 秋田県特別支援学校 ネオホッケー交流大会「い～なチャレンジ」

１月１０日（木）湯沢市総合体育館において、昨年に引き続き県南３校の他に、中央地区の天王みどり学園も参加し、計６チームで大会が開催されました。白熱した試合が多く見られ、延長戦やペナルティーストロークコンテスト（サッカーのＰＫに相当）までもつれる場面もありました。選手たちは日頃の成果を十分に発揮し、シュートを決めるとチーム全員で喜び合う姿が見られました。他校と交流を深める良い機会となりました。

【白熱した試合が繰り広げられました】

【　成　績　】	
１位：稲川支援学校Ｂ	４位：スターマイン（大曲支援学校）
２位：稲川支援学校Ａ	５位：天王みどり学園Ｂ
３位：横手支援学校	６位：天王みどり学園Ａ

第４回 特別支援学校冬季バスケットボール大会「能代ウィンターカップ」

平成３０年１２月８日（土）、能代市総合体育館において第４回特別支援学校冬季バスケットボール大会「能代ウィンターカップ」が開催されました。大会には男子５チーム（オープン参加１チームを含む）、女子３チーム（オープン参加１チームを含む）が参加し、熱戦が繰り広げられました。また大会の運営には能代工業高等学校バスケットボール部と、能代松陽高等学校女子バスケットボール部にご協力いただき、特別支援学校生徒との混合チームによるドリームマッチも行われました。

【男子】
優　勝　栗田支援学校　　準優勝　能代支援学校
第３位　大曲支援学校
※天王みどり学園はオープン参加

【女子】
優　勝　能代支援学校
準優勝　天王みどり学園
※栗田支援学校はオープン参加

【ドリームマッチの様子】